あの冬の日

ナモルハ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
あの冬の日

【Ｎコード】
Ｎ１９８９Ｚ

【作者名】
ナモルハ

【あらすじ】
彼女への想いよ、届け。

墓地を久しぶりに訪れた。
彼女に思いを告げるため。
小さな白い花に乗せたメッセージ。
なかなか受け取ろうとはしてくれなかったけれども。
届いただろうか。

きのう彼女と別れた。
三日前のなんてことないケンカが原因。
僕らは性格上どちらもかなり意固地で。
素直になれないタイプだった。
お互いの呼び方が気に入らなくなって。
二日前にはバカなどの暴言が飛び交う始末。

軒先まで聞こえていたらしく。
一人暮らしの僕は。
アパートの住民にひそひそと噂されているようだった。
どうしてもいらいらしてしまう。
上着を着こんで外に飛び出した。

あいつどうしてるかな。
自然とそんなことを考えている自分にも腹が立つ。
考えてみれば三ヶ月だった。
向こうはもう新しい相手を見つけたかもしれない。
もしかしたら僕のことを思い返してくれるかも。
そんな風に想像してしまう自分にまた腹が立った。
しかし僕の世界に彼女は二度と現れなかった。

いつしか十年がたっていた。
僕は別の女性と出会い結婚した。
ただ両親が少し寂しそうな顔をしていた。
あの元気だった子とは別れたのか。
そう問われた時答えに詰まった。
三ヶ月。
たった三ヶ月。
それでも三ヶ月。
僕の心に燻りを残すには十分な間だった。

しんしんと雪の降る夜。
彼女が亡くなっていた事を知った。
赤信号を渡りはねられた。
それだけだった。

なんで信号無視なんてしたんだ。

気の強いしっかり者の彼女からは考えられないことだった。

僕と別れたちょうど一年後の日だった。

たくさんの思い出がよみがえる。

何故あんなケンカをしたんだ。

思い出の数が増えていくたびに後悔の念が積もっていく。

一人で彼女の墓場を訪れた。

両脇の花だけが気の強い彼女のように凛と立っていた。

墓石の黒が彼女の時が止まった事を示す。

見ていられなかった。

けれども忘れられなかった。

かぜの冷たさに震えながら娘と歩く。

寒いねと言い合いながら歩く。
おっとりとした妻に似て穏やかな性格の子だ。
将来が楽しみであると共に不安でもある。
男を連れて来た時僕はどうするだろうか。
だらしのない男だったらどうしよう。
そう考えるとふと彼女の顔が浮かんできた。
自分はだらしなかったのだろうか。
誰でも一度は経験することだったのだろう。
いままで何度もそう割り切ろうとしてきた。
それでも時々彼女の顔が浮かんでくる。
割り切れていないのだろう僕は。
娘の顔を見ながら決心をした。
残された者として。

逝かせてしまった者として。
けじめをつけるのに選んだのはやはりあの日だった。
途中見つけた花屋に立ち寄り買おうとしてやめた。
そのかわりに。
野原にちょうど季節はずれに咲いていたオシロイバナを見つけた。
寒い中健気に咲く白い花を摘んだ。
その強さに惚れたのだとも思った。

じょじょに雲行きが怪しくなってきた。
よりによってこんな日に雨なんて。
彼女に祈った。
雨なんて降らさないでくれ。
僕はあなたにけじめを付けなければならない。
しかし彼女はそれを聞き入れなかった。
風や雨は強くなる。

まるで駄々をこねる子供のようだった。
ようやく墓石の前にたどり着いた。
白い花は黒い石に良く映えた。
風が花を持っていってしまおうとする。
それを押さえ続けた。
彼女が受け入れるまで。

はかない人生だ。
人間は大体そんなものだと実感する日がついに来た。
病名はガン。
大きくなった娘はしっかりとした男を連れてきてくれた。
これ以上やり残した事はもう無い。
妻には申し訳ない。
しかしこの日に行きたかった。

寝静まったある冬の日。

一つの命が昇っていった。

冬の空に迎えられて。

（後書き）

感想、意見、その他文句等あれば、遠慮なくお書きください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1989z/

あの冬の日

2011年12月7日04時08分発行